

「分からない」と言って遠ざけず、少しでも分かり合おうと向き合ってみる。「関わりたくない」と目を背けずに、手を差し伸べる。手を差し伸べないまでも、見守ってあげる。

そんな社会に、累犯障害者の「居場所」はあると私は考えています。



.....
* 10~11月 例会予定 *

- 10月16日 チベット タンカ絵師
馬場崎 研二 様
- 10月23日 新会員
亀山八幡宮 禰宜
河原 忠徳さん
- 10月30日 佐世保市博物館 島瀬美術センター
館長 安田 恭子 様
- 11月6日 ブリヂストンスポーツアリーナ(株)
ゴルフ事業本部
部長代理 北島 幸治 様



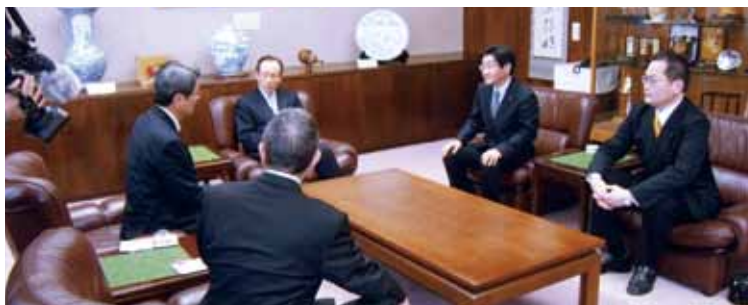
創立60周年記念事業 ④

60周年記念事業は、2010年12月から2011年6月まで、ほぼ毎月のように実施致しました。

東日本大震災義援金贈呈（佐世保市役所）300万円

2011年3月11日に発生した東日本大震災の義援金300万円を、3月23日(水)に60周年記念事業費の中から、佐世保市長に手渡し致しました。

佐世保市から全国市長会を通じて直接被災地に分配されました。



市立図書館に
20万円を寄付
佐世保ロータリー
佐世保ロータリークラブ
(飯田満治会長)は23日、
佐世保市立図書館に図書購
入費20万円を寄付した。
同クラブは2000年の
クラブ創立50周年に300
万円を図書館に寄付。総額
500万円を目標に毎年寄
付を続け、今回で目標額の
寄付を達成した。
同クラブは同日、東日本
大震災の被災地への義援金
300万円も市に寄託し
た。
(石田慶介)

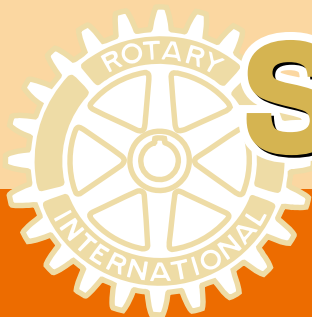
長崎新聞提供

(今週の担当 長富 正博)
(カメラ担当 大久保利博)

クラブ会報・広報委員会

委員長 長富 正博
副委員長 目黒 誠之

委員 大久保利博・白田 浩一
城島 一彦・佐藤 淳



SASEBO WEEKLY

会 長:石井 正剛 幹 事:増本 一也
事務所:佐世保市島瀬町10-12 親和銀行本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323
例会会場:佐世保玉屋8階(毎週水曜日) TEL 0956-23-8181
http://www.sasebo-rc.jp/ E-mail:src@circus.ocn.ne.jp

平成 25 年 10 月 2 日

第 3,091 回例会

NO 13

《本 日》会員数 71 名(出席免除会員 23 名)・出席 52 名・免除者欠席 7 名・欠席 12 名・ビジター 0 名・出席率 73.24%

《前々回》会員数 71 名(出席免除会員 23 名)・出席 48 名・免除者欠席 10 名・欠席 13 名・メークアップ 13 名・修正出席率 100.00%

会 長 挨拶

会長 石井 正剛さん

早いもので、カレンダーの残りが3ページになってしまいました。今日10月2日は、望遠鏡の日だそうです。さぞかし未来が良く見渡せる、望遠鏡があったのでしょうか、来年4月からの消費税増税が決まりました。決まるや否や、天からの使者でしょうか、2つの台風が日本を襲っています。



私の懐へと申しますと、一層の寒さを覚え冬仕度です。

先週、ロータリー関連内外の行事があり出席してまいりました。

9月27日(金)、佐世保青年会議所創立60周年記念行事が行われ、出席しました。佐世保RC会員予備軍を沢山見てまいりました。

9月28日(土)、ガバナー公式訪問歓迎会が、佐世保北RC担当にて、ファーストイン佐世保でありました。

今年度は、ガバナーの要請で、各クラブから5名の出席で行われました。

本日行いました、第4回理事会の報告です。

1. 台南RC60周年記念行事について
参加予定の皆様、及びプランの確認と、今一度参加要請の方法等について協議致しました。ご参加の程、再度お願い致します。

2. 新会員候補者について
今回2名の方の推薦を戴きました。諸手続きが終了いたしましたら、皆様方へ郵送にて賛否を問わせていただきます。
 3. 新会員研修会・歓迎懇親会について
11月13日(水) レオプラザにおいて新会員研修会・歓迎懇親会を行います。スケジュール、講師及び懇親会について、原案通り承認いたしました。
 4. 観月例会収支報告について
予算案通りで承認いたしました。
 5. 10月及び12月例会プログラムについて
10月の予定に一部変更と、12月のプログラムについて承認いたしました。
 6. ラホヤRCとの姉妹クラブ締結更新について
まずメールにて、互いの更新意志の確認を行うこととしました。
 7. ロータリー財団委員会よりの提案について
1人年間100ドル運動推進に関し、ご提案戴き、承認いたしました。
- 以上、ご報告いたします。

例 会 記 録

- 国歌「君が代」
- ロータリーソング「我らの生業」
- 卓話者
長崎新聞社 佐世保支社編集部
記者 北川 亮 様

幹事報告

幹事 増本 一也さん

1. 第2740地区ガバナー 塩澤 恒雄さん
ガバナー・エレクト 宮崎 清彰さん
ロータリー財団委員会

委員長 山田 晃さん

2013-2014年度ロータリー財団セミナーのご案内

日時／2013年10月20日(日)

12:30～受付開始

13:00～セミナー

17:00 閉会予定

場所／佐世保市労働福祉センター

(佐世保市稲荷町2番28号)

クラブ出席者／担当地区副幹事、クラブ会長、クラブ会長エレクト、クラブ国際奉仕・ロータリー財団担当者

2. 第2740地区ガバナー事務所

2740地区ホームページが更新(10月1日)されています。

3. 佐世保中央RC 幹事 野村 和義さん ハウステンボス佐世保RC

幹事 宮下 光世さん

「クラブ現況及び活動計画書・前年度活動実績報告書」が届いております。

4. 佐世保地域文化事業財団

「アルカスSASEBOジュニアオーケストラ
第1回定期演奏会」開催のご案内

日時／2013年10月20日(日)

開場13:30 開演14:00

会場／アルカスSASEBO大ホール

入場整理券3枚あります。ご希望の方は事務局へお申し出ください。

委員会報告

■ローターアクト委員会

委員長 高瀬 宏滋さん

長崎国際大学RAC 10月第91回例会のお知らせ

(2)

下記の日程で例会を行いますので、ご多忙の折誠に恐縮ですが、ローターアクト後援の為、会員皆様のご出席をよろしくお願い申し上げます。



日時／2013年10月10日(木) 18:30 食事

例会場／ホテルオークラJRハウステンボス

登録料／2,000円

卓話／長崎国際大学RAC

健康栄養学科 瀧浪 孝憲さん

「あなたはどのタイプ？」

タイプ別栄養指導！」

■ロータリー財団委員会

委員長 松尾 文隆さん

○溝口尚則会員、大神邦明会員より、(財)ロータリー米山記念奨学会へご寄付をいただきました。



○溝口尚則会員より、年次プログラム基金へご寄付をいただきました。

朗遊会より

米倉洋一郎さん

10月12日の朗遊会のスタート時間は、9:45が1番目です。来週の例会にて組合せ表を渡します。

ニコニコボックス

親睦活動委員会 坂元 崇さん

石井 正剛会長、増本 一也幹事

納所 佳民副幹事、池本 仁史さん

土井 弘志さん、遠田 公夫さん

松本 由昭さん

長崎新聞社編集部 記者 北川 亮様の「累犯障害者たち」と題しての卓話に期待して。

芹野 隆英さん

プログラム委員会、芹野です。先日、歩きながらロータリー活動していたところ、

うっかり「会員名簿」(オレンジ色のもの)を落としてなくしてしまいました。本日、拾った方(西肥バスセンターの方・川口さんではありません)が届けてくれましたので、その分ニコニコします。会員名簿は2冊目から有料で、800円です。

松尾 慶一さん

去る9月28日、とあるコンペで、佐世保C.C8番ホールにて、人生初めてのホールインワンを達成いたしました。日頃の感謝をこめてニコニコします。120ヤードを9番アイアンで打ち、20cm手前に落ちホールインワンでした。たまたま落ちた先にピンが切っていました事を感謝いたします。

ニコニコボックス

本日合計 18,000 円

累 計 276,000 円

卓 話

『累犯障害者たち』

長崎新聞社 佐世保支社編集部
記者 北川 亮 様



「累犯障害者」と呼ばれる人たちがいます。

知的障害や精神障害があるのに、福祉の支援の「網」から漏れ、結果的に万引きや無銭飲食などの罪を繰り返す人たちのことです。この言葉の生みの親は、秘書給与詐取事件で実刑判決を受けた元衆議院議員、山本讓司氏。獄中体験を綴った著書「獄窓記」で、刑務所の中に多くの障害者が収容されている現実を世に知らしめました。

長崎は今、累犯障害者支援の「先進地」となっています。長崎県にある社会福祉法人南高愛隣会(田島良昭理事長)がいち早

く、福祉の場で障害者を更生させる取り組みに乗り出し、ここ数年、愛隣会の実践がそのまま国の制度になっていく状況が生じています。本紙は「地元紙として全力で取材すべきテーマではないか」と考え、2012年7月から約1年間、長期連載「居場所を探して一累犯障害者たち」を展開。この連載は2012年度の新聞協会賞、新聞労連ジャーナリズム大賞優秀賞を受賞しました。

取材班は合計50人以上の触法障害者やその家族に直接会って話を聞きました。捜査に携わった司法関係者の胸の内に迫り、障害者たちを遠巻きに見詰める地域の人たちの声を丹念に拾いました。さまざまなタイプの刑務所を見て回り、「これで障害者が更生できるのか」と疑問も深めました。保護観察所や保護司など更生保護の一線にいる人々の苦悩や限界を知り、障害者が「負の連鎖」に陥る前に、再犯を防ぐ手段はなかったのかと少年期の更生の在り方にも踏み込みました。

時には、客観報道の枠を超え、記者自らが、福祉の支援の手が届かず、孤立し、罪を繰り返している「障害者」を探しだし、福祉サービスにつなげました。1年半以上に及ぶ、地面にはいつくばるような取材の先に見えてきたものは、障害者たちを塀の向こうに追いやったものの「正体」。それは人々の無関心であり、無知であり、まさに彼らを取り巻く社会そのものの姿でした。

取材して分かったことがあります。累犯障害者の人たちに根っからの悪人などいなかったということです。誰もが世間に見放され、生きていくために、仕方なく罪を犯していました。「いい人たちだった」と言うつもりもありません。すぐばれるようなウソもつくし、悪知恵も働く。要は、「普通の人たち」だった、ということです。

累犯障害者の人たちは全国どの地域でも暮らしています。司法と福祉の連携が進んでも、いずれ社会に戻ってきます。障害がある人たちに対して「壁」をつくっているのは社会の方です。